

江戸時代から復活した品川蕪

品川蕪は、文化元年（1804年）、農事などについて編纂させた博物誌『形成図説』に描かれ、品川宿を代表する野菜だったと推測されます。江戸開府以前から品川は存在していますが、品川蕪の品川への入植経路は諸説あり定かではありません。

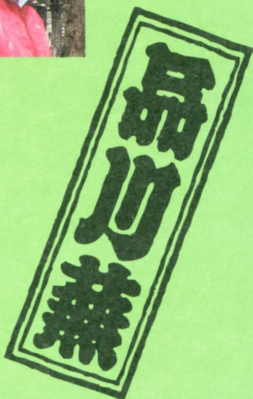
春を迎える保存野菜の品川蕪（長かぶ）は、献上野菜として、また多くが漬物にされていたと言われ、江戸の町民にも喜ばれていたことでしょう。

江戸時代には少しずつ消えていった野菜の一つで、昭和初期頃までは少々ながら存在していたようですが、戦前には完全に消えてしまいました。

近年の江戸野菜復活の動きに伴い、2006年より品川蕪の痕跡を探し始め、2年後の2008年、見事品川に復活をもたらしました。現在では農地を全て無くした品川区ではありますが、地元小学校とともに食育活動の一環として、現在「品川区内に農地」を合言葉に児童たちと小さな校内の畑やプランターを使い品川蕪の栽培を続けています。



東海道品川宿なすびの花
代表 大塚 好雄



令和四年十二月二十五日（日）

第九回 品川蕪品評会 in 品川神社



式次第 令和四年十二月二十五日(日)

1 品川神社様よりお祓い(全員参加) 9時50分

2 開会の儀 10時

3 オープニング講談 田辺一乃 師匠

4 主催者挨拶

東海道品川宿なすびの花代表 大塚好雄氏

5 来賓挨拶 10時15分

品川区長

江戸東京伝統野菜研究会 会長 大竹道茂氏

品川第一地区町会・自治会連合会 会長 金子正秀氏

品川区教育委員会教育長 中島 豊氏

来賓紹介

6 審査開始

(当日、主催者側の指名による審査員10名)

7 江戸を食する《品川汁》(無料)

8 歌唱(スペシャルゲスト)

9 審査発表・表彰式

10 閉会 東品川一・三町会 戸川五郎氏

13 時終了



品川汁



品川蕪品評会の道のり

品川蕪の収穫を祝おう!

2006年、品川蕪をはじめとした江戸東京野菜復活の声を聞き、復興への活動に参加してきました。品川伝統野菜復活に尽力し、品川蕪食育活動も15年越しとなります。

地元小中学校や保育園、幼稚園、児童センター、区民農園などに種子を配布し、生育指導などを行ってきた品川蕪普及活動も、現在では区内30以上の小学校が参加し、品川蕪品評会は、1年を締めくくる暮れの風物詩となっています。おかげで品川蕪もすっかり定着し、地元商店とともに商品化を進め、多くの方が食する機会も増えています。これも関係者みなさま方のおかげと、この場を借りて感謝申し上げます。

主催：東海道品川宿なすびの花

協賛：(有)マルダイ大塚好雄商店
品川法人会女性部会
fun fun スクール実行委員会

協力：品川区学校地域コーディネーター
品川第一地域センター
品川第二地域センター
旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
品川神社



小学生によるプレゼンテーション



品川汁